

2017/3/30

(日々雑感 66)



これは完全な僕の憶測です。当たっているかどうかは全く分かりません。

むすこはひょっとして、僕と居るときだけ、上に立てたのではなかったのか？

「押しつけがましい」と言われて下がったのは恐らく僕だけだったかもしれません。

話にまともに耳を傾けて、問いかけや訴えに幾晩もかけて答えを必ず出したのも僕だけだったのかもしれませんが。

社会や周りはむすこを大抵の場合、下に見て、話に耳を貸さなかった。

むすこは、他の人にはあまり強いことはいいませんでした。僕にだけは「親子でもそこまで言うか！」というようなことも言ってきました。

「自己満足」「マスターベーション野郎」「キモイの極み」などなど。

そうして、物をぶん投げ、捨てて台詞を吐いて出て行っても、それなのになぜか、何度も家に戻ってきました。

ここからは手前味噌過ぎでお聞き苦しいかと思いますが、話の展開上、言われたまますと、

「優れている。その力は認めるよ。おじいちゃんを完全に越えた。文才もあるし投資の才もある。埋もれているのは勿体ない。世に出た方がいいと思う」

そうして、会社を興せと言ひ、本を出せと言ひ、講演をしろと言ひ、経営コンサルをしろとも言ひ、ある意味言われるとおりにやってきました。当初、会社を興すつもりも、本を出すつもりも全くなかったのです。もちろんそれ以降に言われたものについても。

完全な背反矛盾を感じました。一体どっちが本当なんだ？一体どこからどう見ているんだ？さっぱりむすこの立ち位置や視点が分かりませんでした。

ここでまた、お得意の連立方程式を使ってみました。あるいは三段論法を。

お父さんには強くなれる。押さえられる。上に立てる。

お父さんは優れている。

その上に立て、引き下がらせ、答えを引き出す力を持っている自分は、更にその上だ。

社会や周りは、間違っている。自分の（むすこの）真価がわからないのだ。

多分、自分はとても優れた特別な存在なんだ。

と。

元々ナルシスティックな傾向はあったような気はします。それに由来してか、自意識過剰で、見栄を張る傾向も。

子供の頃、むすこを誘いに友達が来たときに、たまたまむすこがトイレに入っていた折、下のむすこに「うんこしているなんて言ったらぶっ殺すぞ！」と言うのを耳にして、先行き妙なことにならなければいいがと思った記憶があります。

長じて青年になってからも、パソコンを二重発注したことがありましたが、ぼくがそれに気づいて「取り消しなよ」と言った折も、それには耳を貸さず、更に言うに「そんなみっともないことは出来ない！」と取り消さなかったこともありました。

何か少し尋常ではないなと思ったりもしました。言うに異様のうるさがるので引き下がりましたが。

おそらく、そう感じたりするのも、僕自身とむすこが極めて似ているからなのかもしれません。僕もかつては、人の視線が気になって街を歩いたり、電車に乗ったりするのが頭痛や吐き気がするほど苦痛だった青春時代がありましたから。褒められると有頂天になって万能間に浸りきることがままありましたから。

昔、弟から「見栄と虚栄の壪（るつぼ）、権現様（ごんげんさま）」と言われていたこともありましたが。「兄貴もおだてりゃ木に登る状態」とも。

同じ穴の貉。似たもの同士。

あまりにも似すぎ、近すぎるために起こる近親憎悪をむすこは抱いているのかもしれませんが。

また近すぎる僕に対する「アンチ」であることでしか、自分の確認や自分を成り立たせることが出来ないのであれば、僕がいなくなってしまうえば、自らの存在確認や存立が出来なくなってしまう危険性も感じます。これはとても危ない事です。行った先が地獄以外の何物でもないからです。

僕としては、一刻も早く、それに気がついて、今度こそ、むすこには、自分は自分なりの別の道を歩いて欲しいと心底、思っております。